

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	一般財団法人日本老人福祉財団	ホーム名	浜松ゆうゆうの里	ID	3001
	評価機関	京都府認知症グループホーム協議会	評価日	平成30年11月19日	

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	B	B	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

## 評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケールNo.	所 見
2-4-3	介護記録全般に「長寿ソフト」を活用し、浜松ゆうゆうの里及び、全国ゆうゆうの里で共有化している。東京本部も牽制と指導的立場から全ての情報閲覧が可能となっており、風通しの良い組織となっている。10年以上前より慣習として、インシデント提出促進の風土が根付いている。日々の小さなミス・ひとりの気づきも逃さず、インシデントとして提出させている。1日3件提出を目標として、平均的に月100件以上のインシデント報告が挙げられている。さらに、インシデントの傾向分析、1件ごとに対応策を講じることで、実際の事故発生への防御策となっている。
5-1-2	食べることの楽しさを追求する為に、メニューのヴァリエーションに力を注いでいる。入居者との食事座談会を年1回実施し、嗜好や食に対する要望をサービスに反映させる仕組みを作っている。日常的に残量チェックをし、嗜好傾向の調査を行っている。さらに、年4回開催のスタッフ会議でアイデアを出し合い、食の楽しさとメニューの工夫を協議している。例えば、静岡県産の秋野菜を取り入れた独自の献立作りを、食事スタッフが担当している。また、他府県のゆうゆうの里と連携してその土地の人気料理・郷土料理の再現等チャレンジしている。日々の選択メニューは、基本サービスとして、季節・祝祭日の特別メニューも提供している。自立入居者も多く、自炊している方も多いが、魅力的な内容のメニューを作り、自立入居者にも楽しめる取り組みをしている。
6-2-8	80人以上の親族・身元引受人に向けて、毎月、入居者一人一人の近況報告とホームの行事報告・行事案内等の情報を発信している。各入居者の写真も添え、家族等が見て本人の状態が確認できるように配慮している。担当職員が10人～15人の家族レターを作成している。写真撮影・レター作成・発送事務の作業を毎月行っている担当職員の熱意と労力で、家族等に入居者のホームの生活の様子が届けられている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケールNo.	所 見
6-2-3	要介護状態からの入居者は少数派で、多くは自立での入居となっている。自立の段階からひとり一人の心身状況を観察できるので、介護状態に移行した時点において細かくアセスメントができ、課題認識が深まるものと推察する。ケアプランの2表および3表に関しては、詳細かつ丁寧に作成されているが、1表についてはやや物足りなさを感じた。1表はケアプランの顔であり、全体のケア方針が端的に示されているシートである。本人・家族・ケアワーカーが1表を見て、その方のケア方針の全体像を直ぐに把握することがねらいである。2表・3表と同じく、1表のさらなる充実を期待する。
7-3-3	介護入浴室は、十分な広さが確保され、安全に配慮されていることが伝わった。空間の広さ故に感じたことかも知れないが、介護入浴室の印象として、少し殺風景ではないかと感じた。各種浴槽の機能性については、問題なく安全な入浴が確保されている。一般浴には観葉植物が置かれ、温泉ムード満点に配慮されている。介護浴室であるからこそ重視したい、暖かみのある空間を創るためのひと工夫があれば考える。たとえば、観葉植物・カーテンの色柄・壁や窓の演出ひとつで空間全体の印象が変わってくるのではないかと考える。